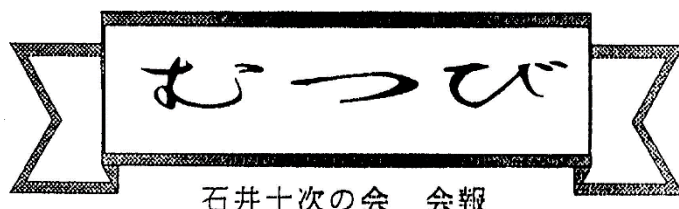


2023年
(令和5年)
7月13日



310号

石井十次の会 会報

所感ならびに石井十次の会報告

石井十次の会

会長 橋田 和実

今、我が国は人口減少、少子高齢化を基調として、コロナ禍、ウクライナ戦争や円安による諸物価高騰そして各地で頻発する大規模災害、さらにデジタル化、AI化という問題、課題に直面しております。これらにどう対処していくかが問われています。加えて、環境破壊も著しく自然と共生し、持続可能な社会をどう構築していくか、以前からの継続した課題が横たわっています。

そのような状況で、人間が心身ともに健康で生きていくためには “ 心の環境保全 ” と “ 地球環境の保全 ” が肝要かと存じます。この点石井十次先生は大自然の中で農作業を営むことが、自己免疫力を高め、心身を健全に努めることにつながると考え実践をされました。このことは現在も石井十次の精神を受け継ぐ石井記念友愛社においても実践されており、青少年を健全に育て、世の為人の為に役立つ立派な人財として世の中に送り出しています。この精神文化は世の中がどのように変化しようともしっかり引き継がれていくものと信じます。

さて、令和4年度の「石井十次の会」活動はコロナ禍3年目の中で十分な活動ができませんでした。去る4月22日に総会を兼ねて幹事会を行い、令

和 4 年度事業報告並びに決算報告と令和 5 年度の事業計画並びに予算について承認して頂きました。それらの結果については別紙にて報告させていただきます。

なお、奨学金につきましては令和 5 年度は 6 名に支援させて頂くことになりました。皆様方のご協力、ご支援により収支状況並びに基金等については良好に推移しております。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

今年も 3 月末に友愛社は 7 名の卒園生を送り出していますが、私も副会長とともにそのお別れ会に参列し、お祝いと激励をさせていただきました。卒園生からは「友愛社で仲間や先生方と一緒に生できて良かった。自分の運命も良い方に変わり、社会にでて人の為に役立つ人間になるよう努力します。」という頼もしく感動するお別れ会でした。我々も友愛社に支援させていただく喜びを感じました。これからも会員の皆様のご協力とご指導をいただきながら、「石井十次の会」の活動を進めてまいりたいと思います。

誰でも多かれ少なかれ困り事を抱えている。小中学校の子ども達の困り事は学習面や家庭生活のことが多い。例えば、何回練習しても漢字の読み書きが覚えられず自信をなくしてしまう、忘れ物が多く学習活動が思うように進められずイライラする、発音が不明瞭なために相手に気持ちが伝えられない等である。

学校には、このような子ども達に寄り添って指導し、改善・克服をめざす特別支援教育の体制が整備されている。私はこれまで十数年間子ども達一人ひとりの困難に向き合い、自分の強みと弱みを知って自分に合ったやり方や苦手意識を補う方法を一緒に考えて取り組んできた。

中でも最も多い困り事は「漢字の書き方を何度練習しても覚えられない」ことである。同じ漢字を10回～20回書いて練習したにもかかわらず、10問テストではほとんど書けない。この繰り返しが続く。その結果、練習しても自分には漢字を覚えることができず、苦手だという思いがさらに強くなってしまうのだ。

どんな人にも覚え方や処理の仕方等には、得意・不得意がある。これにはいろいろな要因があるといわれているが、脳の情報処理のタイプで決まることがある。自分のタイプを知ると、苦手なことも解決できる糸口が見つかるかもしれない。1つは「継次処理」で「順序だてて考えたり時間の流れに沿って考えたりする力」のこと。一方、「同時処理」は「情報を同時にまとまりとして考えたり複数の情報から関係性を見つけたりする力」のことだ。

私は、授業で子どもと出会った初日には、必要に応じてチェックリストを用い情報処理タイプを確認するようにしてきた。それは、一方的に自分の処理タイプで学習を進め、結果的に非効率的になることを避けるためだ。

前述した、漢字が覚えられなかった子どもは、指導の方法が合わなかったことから、効果を得ることができなかったことがうかがえる。漢字の形を覚えることが苦手な場合は「なぞり書き」ができるものを準備し正しく5回なぞる、「杉」だと「木にひげ三本」というように声に出しながら書く等、その子どもに合った方法を見つけ、楽しく学ぶことができる環境をつくる必要がある。

困り事を抱えた子ども達に寄り添ってかかわるためには、お互いの処理タイプを知った上で、それに合った方法で対応するとよい。また、集団にかかわる場合は、継次処理、同時処理のどちらのタイプにも伝わるよう、二刀流で準備する必要がある。

【自分は、継次処理か、同時処理かをチェックしてみましょう】

- ① 使っている腕時計は
A;デジタル派 B;アナログ派
- ② スケジュール管理するときは
A;毎日を時間ごとに並べて管理
B;一週間や一か月等全体を見渡して管理
- ③ 目的地までのナビゲーションは
A;音声や文字での案内が分かりやすい
B;地図を見ての案内が分かりやすい

※ Aが多かった方は「継次処理」タイプが優位、Bが多かった方は「同時処理」タイプが優位と言えます。

じ ぜん ばこ 慈 善 函

明治 32 年 1 月 9 日、石井十次は全国枢要の停車場（駅）に朱塗りの慈善函を設置することにしました。慈善寄附金を集めるためです。写真は資料館に残された慈善函で、山陽本線の広島県糸崎駅に置かれていました。「多少にかかわらず寄附被下ん事を乞ふ」と書かれています。駅では定期的に中を開いて寄附金を確認し、岡山孤児院に送ってくれました。『岡山孤児院日誌』（明治 35 年分）には次のような記録が残されています。

「明治 35 年 8 月 16 日、日本鉄道高崎駅長ヨリ慈善函入金弍円三十銭送付セラル」

「同年 9 月 4 日、福島県磐城郡湯本駅長ヨリ慈善函入金壹円八十銭送付セラル」

「同年 9 月 25 日、慈善函、日本鉄道盛岡駅長ヨリ壹円十五銭送付セラル」

しかしながら、世の中には困窮する者が多く、ときどき中の寄附金が盗まれたり、時には慈善函ごと盗まれることもありました。

「同年 8 月 15 日、紀和鉄道運輸課ヨリ和歌山駅慈善函盗難ニ罹リシ旨通知アリ」

「同年 9 月 3 日、九州鉄道運輸課ヨリ高島駅ノ慈善函盗難ニ罹リシ由通知アリ」

十次は盗んだ者の心情を察して、警察に届けたりはせず、代わりの慈善函を直ちに送りました。各駅長は、十次の依頼に応え協力を惜しみませんでした。なかにはこんな注文もありました。

「同年 8 月 21 日、東京上野駅長ヨリ送附ノ慈善函ハ余リ大ニ過グル故ニ今 少 シ小キモノヲ送ル様申込ミアリ」

上野駅は東北への玄関口で乗降客が多く、大きな函は邪魔になるので小さめの函を希望したというわけです。岡山孤児院は多くの人々の善意に支えられていたのです。

参考：石井十次資料館研究紀要第 23 号 P189「岡山孤児院日誌」（編集委員 石川正樹）



糸崎駅に置かれていた慈善函

《 お し ら せ 》

★新会員のご紹介（敬称略）

【宮崎市】入野富美子 小川考洋 【高原町】岩満美久子

★ご寄付をいただきました（敬称略）

【宮崎市】フジネットシステム 越智 公美子 【都城市】平井良子 前田 重治

【西都市】兼松圭次 鬼塚長幸 【延岡市】土井 裕子【高鍋町】小森正隆 高橋裕子

【木城町】西都造園 【東京都】小林 敦子

*ここまでの掲載者は編集等の都合により 6 月 20 日までのものとしています。

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

〒 884-0102宮崎県児湯郡木城町大字椎木644-1
社会福祉法人 石井記念友愛社後援会
石井十次の会

TEL/FAX 0983-32-4612

メール yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp

編集後記

●橋田和実会長から、十次の会の報告と所感について巻頭言をいただきました。西都市長として多忙な業務のなかで、十次の会の会長として十次の精神を受け継いで活動されている姿に感銘を受けます。会員としても励まされる内容です。

編集委員 石川正樹